

## パブリックコメントで頂いたご意見の紹介について

# 意見募集の概要及び結果について

## 1. 意見募集の概要

### (1)意見募集対象

#### 1) 治水、利水、流水の正常な機能の維持の対策案の具体的提案について

ダム検証に係る検討では幅広い方策を検討することが求められております。今回立案した対策案以外に、豊川において具体的対策案の提案を募集します。

#### 2) 治水、利水、流水の正常な機能の維持の複数の対策案に関する意見について

今回立案しました複数の対策案の実現性や具体性・地域社会や環境への影響等など様々な観点から想定される問題点や考慮する点、また豊川流域の特性を考慮し、さらに評価すべき点などについて、ご意見を募集します。

### (2)募集期間

平成23年2月17日(木)～平成23年3月18日(金)(必着)

### (3)提出方法

ご意見は、郵送・FAX・電子メール

## 2. 意見募集結果の概要

### (1)意見提出者

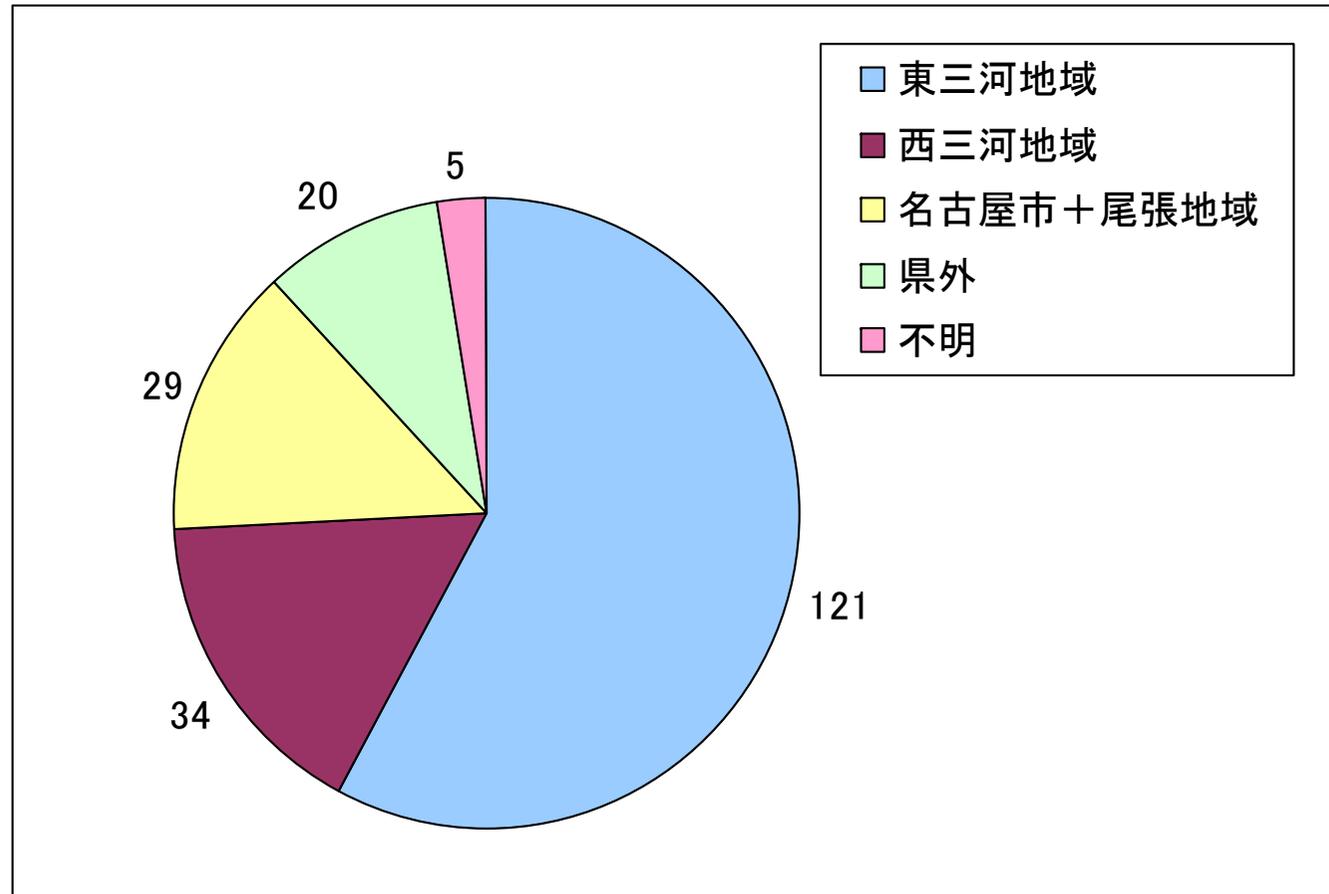
・全体209件

### (2)意見募集対象毎の述べ意見

1) 治水、利水、流水の正常な機能の維持の新たな対策案の提案に関する意見	: 17件
2) 治水、利水、流水の正常な機能の維持の対策案に関する意見	: 427件
3) ダム検証に関する意見	: 103件
4) その他の意見	: 120件

## 意見募集の概要及び結果について(参考)

○ご意見については、東三河地域を中心に広く意見を頂きました。



○代表的なご意見については、以下に取りまとめましたのでご紹介します。

○なお、頂いたすべてのご意見、頂いたすべてのご意見に対する検討主体としての考え方については、別添をご覧ください。

# パブリックコメントで頂いた主なご意見

(新たな対策案の提案について)

## 【新たな対策案に関するご意見(治水)】

- 山の地下に貯留空間を設ける。山の地下にトンネル状の貯留空間を設ける。
- 牟呂松原頭首工から国道151号の地下を経由した放水路を設ける。
- 放水路の能力アップ。
- 山の整備に勝るものはない。
- 里山の維持は治水面からも極めて大切であり、ダム建設と併せて考えるべき。
- 戦後の山林の植生改善を評価した洪水調節計画に基づくことが確認されるべき。
- 川をせき止めることができる現在の土木技術で、「決壊しにくい堤防」、「決壊しない堤防」ができないはずはない。  
なぜ対策案から外したのか理解できない。
- 「決壊しない・しづらい堤防」案をだし、それに旧東上霞を計画遊水地とし、残りの三霞堤も存置する案がベターである。

## 【新たな対策案に関するご意見(利水・流水の正常な機能の維持)】

- 木曾川水系からの導水。
- 天竜川、矢作川水系両方からの導水。
- 山の地下に貯留空間を設ける。山の地下にトンネル状の貯留空間を設ける。
- 旧東上霞を計画遊水池として貯留した水量を放流する。
- 水源地の森林を整備して保水力を向上させる。

# パブリックコメントで頂いた主なご意見

(治水対策案に対するご意見①)

## 【現計画に対してのご意見】

- ダム等の巨大人工構造物に依存する河川政策から脱却し、氾濫許容型治水へと転換すべきである。
- 現実可能な現計画ですすめてもらいたい。
- 設楽ダムの効果は、堤防の余裕高内で十分処理できる程度のものでしかない。
- ダム建設を白紙に戻して、堤防の弱い部分の補強と、河床の掘り下げで対応してください。大野頭首工に貯留している土砂は、速やかに下流に流下させてください。
- ダム予定地の山林で300haの伐採を行えば、山の砂は流れて堆砂が早まる。
- 設楽ダムは豊川の治水・利水についてどの対策が最良かを検討して来た結果、ダムによる対策が最良との結論で事業を進めて来たものです。政権が変わったからと云って、事業の継続性を無視したやり方には怒りさえ覚えます。ダム建設予定地の設楽町としても長期間の議論の末、必要性を認め建設について苦渋の選択をしたと思います。それが見直しとは？と言った心境ではないでしょうか。
- 現在進めている多目的ダム並びに河道改修、霞堤3箇所存置方式が合理的・経済的であり、現実性が高い。事業の推進に当たっては引き続きその都度経済性・環境への影響等を十分点検しながら着実に実施する必要がある。
- 設楽ダムは下流受益者から建設が熱望され、地元及び水没等地権者の皆さんもその要望に応えるべく長年討議検討の末、苦汁の決断をし建設同意したダムです。近年は地元住民の同意なくしては事業は出来ません、やっと同意したダムを初めから見直すなんて、住民を無視した方策です。
- 治水・利水・環境の総合的な視点から長年、地域において議論され合意形成が図られた現計画が最も実現可能性があり合理的である。

# パブリックコメントで頂いた主なご意見

(治水対策案に対するご意見②)

## 【河道処理に対してのご意見】

- 治水⑩捷水路を洪水時だけでなく、改修時のバイパス水路として利用できれば、安全面、管理面ともよくなるのかなと思う。
  - 対策可能と思われる案は①、②(河道掘削した大量の土砂処理の課題は有る)。
  - 霞における洪水流の滞留時間は長くても1日程度であり現霞及び旧霞の洪水調節機能は最大限活用する。現・旧霞の極度な宅地化は進んでいないので早めの計画決定が必要。
  - 河道掘削等は何年間かの繰り返しを要し、堂々巡りで際限がなく、根本的な解決策とは言い難く、費用、期間等からも万全作とは考えにくい。
- 既設ダム対策を加味しても、対応できる問題ではないと考えている。
- 豊川と放水路に挟まれた区域は霞堤として機能するが、放水路と山側に挟まれた区域は霞堤として機能しなくなるとともに、内水排除対策が必要となる。又、霞地域の地域分断となるとともに橋梁等の施設が必要となるとともに長年にわたり洪水被害を受けてきたこの地域に対してさらなる犠牲を強いるものとなり、不適當と思われる。
  - 河道を掘削する案については、大量の掘削残土をどうするか処分が問題である。180万m<sup>3</sup>というボリュームはかなりの経費と搬出のための地域内交通の輻輳は地域生活に与える影響が大である。

## 【引堤、堤防かさ上げに対してのご意見】

- 引き堤や堤防嵩上げは、多大な土地の取得、家屋移転が伴うと共に、超過洪水により破堤したときの被害リスクが大きくなり、社会的影響が大きい。
- 全ての案が整備計画の費用を上回っていることは問題があると思います。整備計画も含めて全ての案が霞堤を存置することになっています。この事は地域住民に永久的に負担を強いることになり問題が残るのではと危惧します。
- 実現可能なダム計画を含む現計画の早期実現を望むものであり、堤防かさ上げや引き堤は、水位上昇や橋の架け替えや土地の買収問題や住民個人個人の了解が必要となり完成まで多大な期間と多大な費用がかかる。国の財政や少子化を迎えて問題を先送ることは不適當である。

# パブリックコメントで頂いた主なご意見

(治水対策案に対するご意見③)

## 【流域対策に対してのご意見】

- 整備計画に基づいた対策を実施することが最良と考えます。整備計画に追加して、公共施設(用地買収を伴わない)の敷地を使った貯留施設を各所に設置してはどうか。
- ⑬水田保全案も地域農業保全の観点から、有効案と思いますが、今後の高齢化進展を考えると、土地所有者の理解と管理への支援方策の連携が重要と考えます。
- 雨水貯留施設・浸透施設は、洪水ピーク時の低減に期待される効果が発揮できるか疑問。
- 対策案のうち、雨水貯留施設は計画論になじむのか。

## 【ダムの有効活用に対してのご意見】

- 設楽ダム、宇連ダム、大島ダムの3ダムを統合管理し、治水、利水、流水の正常な機能の維持を図るようできないのかの検討をお願いしたい。
- 16～21既ダムの有効利用を考えるのなら分散した方が洪水のリスクが少ない。
- 設楽ダムのCA:62.2km<sup>2</sup>、宇連ダムCA:26.26km<sup>2</sup>、大島ダムCA:18.3km<sup>2</sup>とCAが設楽ダムと再開発ダムとでは1.4倍となり洪水調節容量も下流への効果を見込んだ場合再開発ダムでは設楽ダムでの必要容量より大となると思われる。又、既設ダム嵩上げは新設ダムと同程度のコストが必要となり、非常に高いものとなるから豊川の場合不適當。※CA(catchment area):流域面積のこと
- ダムのかさ上げを含む対策は「ダムに頼る」ことに変わりはなく、もともとの考え方に反する。
- ダムのかさ上げをするにしても、宇連ダム、大島ダムの両ダム、河川改修等など、大幅に工事は必要になるため設楽ダムの建設でまとめた工事をして頂いた方が効率的だと思います。

# パブリックコメントで頂いた主なご意見

(治水対策案に対するご意見④)

## 【計画遊水地を整備する案に対してのご意見】

●旧東上霞の復活は検討の余地あり。

●遊水地開口部変更は検討の余地なし。

●治水対策案22(遊水地(旧東上霞)+3霞堤存置)

何を今更の感がする。治水対策最優先の案で、非常に非現実的である。東上地区は、かつて、洪水に悩まされたが、堤防が出来たことにより安定してきた生活ができるようになった。それを再度元に戻すようなことには賛成できない。本対策案の実現には多大な犠牲がしいられる。特に、東上地区の霞堤設置は、脈々と築き上げてきた本地域(東上)の破壊・崩落を招くものである。

●対策案中、霞堤は本堤へ。バイパスや遊水池は非現実的で優良農地の放棄となる。等で反対です。

昭和44年の水害から、41年も経過しており、2年前にも増水し、下流からの「差し水」が、住居手前までできており、不安との闘いです。住民の生命・財産を守るのが国の役割とも考えており、作為義務を果たしていないと思います。川幅を広めるため、住居移転をした4軒の人の思いを無視しないでほしい。

●施設対応が可能な地域は流域の中流域から下流域が大部と考えられ、山間部の流出量に対応できるのは少ないものと考えられる。又、降雨の初期、中期までに貯留及び浸透能が満杯になる可能性が大であり、大きな出水に対しての効果は見込めないと思われる。

●④⑦⑨⑱21、24 宅地のかさ上げ・ピロティ建築で対応する案は、洪水時の孤立を助長するものであり、住民の理解が得られないばかりか、霞堤に住む住民に対する心理的不安を拭うことができない。

●①から24全ての対策案には、霞堤を存置し金沢区を遊水池として活用する案ばかりで、区民の安心・安全な生活は保障されない。

## 【全般的なご意見】

■どの対策案も直接間接に影響を受ける住民等、多数の関係者を今後新たに巻き込む。

■いずれの案もダム建設を進めるために意図的に過大の計画として経費を算出している。

# パブリックコメントで頂いた主なご意見

(利水対策案に対するご意見①)

## 【現計画に対してのご意見】

- どの案も費用対効果、納期、環境影響度で基本計画を上回る案はない。
- 現行利水計画で早期完成を要望する。
- 必要な時期に必要な量を安定的に供給できるダムが必要。
- 新たにダムを作る必要はない。
- 大雨や渇水のための準備をやることはやっておくことは大切ですが、ダム建設というやり方は、山間地にくらす人々を苦しめるやり方であり、納得できません。

## 【河道外貯留施設、ため池に対してのご意見】

- 調整池やため池を含む案は、優良農地の減少を招き、利水事業の目的に逆行する。
- 調整池やため池について、これだけ多くの施設を造る土地はない。
- 現ため池や旧ため池の再開発を行う。

## 【ダム再開発に対してのご意見】

- 両ダム共に流域が小さくかさ上げしても流入量に限りがあり、効果が期待しにくい。
- ダム再開発による容量確保は重要な対策案。
- 既存ダムの嵩上げは、工事中のダム機能がゼロになる。
- コストが高く時間を要する。

# パブリックコメントで頂いた主なご意見

(利水対策案に対するご意見②)

## 【水系間導水に対してのご意見】

- 現行の天竜川からの導水実現に貢献した先人に感謝し、これ以上の期待をすべきで無い。
- 既存の天竜川水系からの導水は過去にもありましたが場合によっては援助を受けられると思います。ただし、不確定と言わざるを得ません。
- 対策案4(水系間導水(矢作川))には反対です。水利者にとってこれほど不愉快な案はありません。
- 水開発は水系内でまかなうものであり、他水系からの導水はダメ。
- 不確定な近隣水系からの導水は困難。
- 他水系との渇水調整による相互補給は望ましい。

## 【地下水取水に対してのご意見】

- 現在でも最大限活用しており、井戸の新設等は全く考えられない。
- 地盤沈下の恐れが生じ、恒久対策とはならない。
- 現実的に昨今地下水の塩水化が進行しており、危惧増大。
- 地下水取水は社会影響の点で豊川流域には採用は困難。

## 【海水淡水化に対してのご意見】

- コストが掛かり過ぎで理解を得られないのではと思います。

## 【既得水利の合理化・転用に対してのご意見】

- 現実性に乏しい
- 過去の歴史や経緯を考えると複雑で調整が困難な問題。

# パブリックコメントで頂いた主なご意見

(流水の正常な機能の維持対策案に対するご意見①)

## 【現計画に対してのご意見】

- 設楽ダムが一番効率的な施設で、常に水を流れているのが川だと思う。
- 大雨や渇水のための準備をやることはやっておくことは大切ですが、ダム建設というやり方は、山間地にくらす人々を苦しめるやり方であり、納得できません。
- 新たな施設を建設する必要はない。
- 流水の正常な機能の維持にダムは有効であると考えます。

## 【河道外貯留施設、ため池に対してのご意見】

- 田畑を潰す調整池案は反対である。
- 河道外貯留、ため池案はランニングコスト等管理面から不適當。
- 水がほしいときにすぐ使えるように、地元のため池の整備が必要。
- 用水の確保や水のネットワーク構築の上で現実的ではない。
- 膨大なため池からの送水の実現性は疑問。

## 【ダム再開発に対してのご意見】

- 膨大なコストがかかること、ダム強度の確認や、周辺環境に多大な影響を及ぼすことなどが懸念される。
- 対策案のダムのかさ上げは、遡上する魚類に大きな影響が出る。
- 既存ダムとの連携した方策は必要と思います。

# パブリックコメントで頂いた主なご意見

(流水の正常な機能の維持対策案に対するご意見②)

## 【水系間導水に対してのご意見】

- 豊川のことは豊川で対処すべき、他へツケを廻すことは解決にならない。
- 近隣水系の天竜川水系・矢作川水系も渇水であることが多く、非常時における調整が極めて困難。
- 天竜川からのもらい水は、天竜川の渇水状況から限界である。
- 導水計画については計画の可能性や地元の同意を得る必要があり早期の計画には不向き。

## 【地下水取水に対してのご意見】

- 適当な量の利用は良い。
- 地盤沈下を引き起こすと共に、地下水の塩水化を引き起こすものと思料する。
- 水道事業などにおいても利用されており、十分ではない。
- 地下水取水は社会影響の点で豊川流域には採用は困難。

## 【既得水利の合理化・転用に対してのご意見】

- 事業効果・内容が劣る。実現性に乏しい。
- ダム運用(維持放流)が合理的・弾力的に実行できるようなルール作りが必要である。

## パブリックコメントで頂いた主なご意見

(評価軸に関するご意見)

- 環境保全について考慮すべき。
- 地域産業に与える負荷を考慮すべき。
- 事業進展度及び完成までの期間の評価の項目が必要。(短期間に整備できることが最重要)。
- 下流地域のコミュニティ維持や、住民の財産保全、農業などの産業、そして河畔林や川底の自然環境に大きな負の影響について評価すべき。
- 長年、地域において議論され合意形成が図られた現計画が最も実現的。
- 計画実現の時間軸を重要項目として評価するのが相当。
- 設楽ダムができれば豊川・渥美湾は致命的な打撃を受けることは明白である。
- 指定区間の効果を加味すべき。
- 当地における水資源開発の必要性は治水よりも優先度が下位である。

# 新たな対策案の立案について

## 【新たな対策案に関するご意見(治水)】

- 山の地下に貯留空間を設ける。山の地下にトンネル状の貯留空間を設ける。
- 牟呂松原頭首工から国道151号の地下を經由した放水路を設ける。
- 放水路の能力アップ。

## 【新たな対策案に関するご意見(利水・流水の正常な機能の維持)】

- 木曾川水系からの導水。
- 天竜川、矢作川水系両方からの導水。
- 山の地下に貯留空間を設ける。山の地下にトンネル状の貯留空間を設ける。
- 旧東上霞を計画遊水池として貯留した水量を放流する。

**※上記の提案された対策案については、目的別の対策案をして加え、概略検討を実施します。**

※上記の他、「決壊しない堤防、決壊しづらい堤防」、「森林の保全」についてもご意見がありましたが、下記の理由により新たな対策案としては取り扱っておりません。

### 「決壊しない堤防、決壊しづらい堤防」

技術上の観点からの実現性の見通し等を考慮し、検討から除いています。

### 「森林の保全」

森林の保全は、全ての対策案に組み合わせています。森林面積を増加させる場合や顕著な地表流の発生が見られるほど荒廃した森林を良好な森林に誘導した場合、洪水流出を低下させる可能性があります。顕著な地表流の発生が見られない一般の森林では、森林に手を入れることによる流出抑制機能の改善は、森林土壌がより健全な状態へと変化するのに相当の年数を要するなど不確定要素が大きく、定量的な評価が困難です。森林の保全と適切な管理が重要であると考えています。